

武侠映画における兵器と武芸の表象

車 明釧

大阪市立大学大学院 文学研究科 言語文化学専攻

中国語中国文学専修 後期博士課程1年生

Keywords: 武侠映画, 冷兵器, 不射之射, 剣光闘法

1. はじめに

中国における武侠映画は日本の剣戟映画（チャンバラ映画）と似たタイプの映画である。武侠映画とは、おおまかに言えば文字どおり「武」と「俠」を描く映画である。主な登場人物は、武術にすぐれ、任俠を重んじる者たちである。武侠映画に出てくる武術の内容は中国の伝統的な武術文化と切り離せないものである。その中でもとりわけ冷兵器（火を用いない武器）は、重要な武術の構成部分として、武侠映画のアクションデザインに欠かすことのできない役割を果たしている。冷兵器に関する多種多様な表現と描写は、武侠映画が発展し、現在に至るまで人気を博している主な要因の一つなのである。そこで本発表は、主に、中国武侠映画において深い意義を持つ冷兵器の登場について紹介することとする。

2. 十八般兵器と十八般武芸

冷兵器とは火を用いない非火器の兵器のことである。この冷兵器である十八般兵器（じゅうはっぱんへいき）または十八般武芸（じゅうはっぱんぶげい）とは、中国武術で用いられる十八種の武器及びそれら武器術のことである。十八般兵器は通常「刀槍劍戟、斧鉞鈎叉、鎗棍槊棒、鞭鎚抓、拐子流星」を指す。十八般兵器または十八般武芸は多種多様で、時代や流派によって変化してきた。ただし、刀槍劍戟などは主要な武器として常にその中に含まれていたため、武侠映画の中で最もよく見られる武器である。しかし、実際には武侠映画に登場する冷兵器は十八種類だけではなく、他の兵器や兵器として使える日常生活のツールも含まれている。例えば、ペンチ、扇子、箸、針、傘、腕輪なども武侠映画でよく出てくる兵器である。

3. 武器と人格

武侠映画で登場する武器は、武器そのものの意味を有するとともに、人物の身分を暗示する役割もある。例えば、江湖（俗世間）には「君子は劍を持ち、俠客は刀を使い、刺客は短劍を使う」という固定の身分と武器の暗黙の組み合わせがある。そのため、武侠映画において正義の味方が使う武器の中では、刀と劍が圧倒的に多くの割合を占めている。逆に、敵の側では、短劍や暗器（隠し武器）などの武器の使用頻度がかかなり高い。また、一部の武器は俠客の江湖の地位を暗示することができる。例えば、『倚天屠龍記』の中、江湖で争奪と混乱を引き起こした「倚天劍」と「屠龍刀」、『グリーン・デスティニー』（原題: 臥虎藏龍）の中で武林

(武芸界)での高い地位を表す「青冥宝剣」、『ブレイド・マスター』（原題：繡春刀）の中で中央権力と庇護を代表する「繡春刀」などがある。

4. 武芸と宗教思想

武侠映画には、善と悪の対立を超える第三種の力、即ち宗教の力が存在する。武器は具象化する宗教力の一部となる。例えば、武侠映画『ジャッジ・アーチャー』（原題：箭士柳白猿）には、道教の「無為」思想を代表する「不射之射」という射術が出てくる。『不射之射』は1988年に上海美術電影製作所と川本喜八郎が共同で撮影した短編アニメーションで、春秋時代の中国を舞台に天下一の弓の名人を目指す若者紀昌が悟りの境地にたどり着くまでを描く語である。最後、紀昌は弓道を悟り、「不射之射」の究極の境地に達した。この紀昌の話は、中島敦『名人伝』の題材となっている。このアニメに見える「真の行いはなすことなく、真の言葉はいうことなく、真の弓は射ることなく、不射之射（射ずして射る）」（中国語：至为为不为，至言为无言，至射为不射，不射之射）という「不射之射」の射術は、道家の「無為」を主とする哲学思想を融合させて、弓道の最強の力を見せてくれるのである。映画『ジャッジ・アーチャー』では、主人公は川に向かって弓を射るなどの修行を通じて、同じ「不射之射」の射術を悟り、最後にこれまで仏教を信じていた時に生まれた精神的な問題を克服した。武器と宗教の力の組み合わせは、キャラクターの人間性と成長に対して、より多くの考えと視点を与えてくれる。

5. 技の演出と特撮

中国武侠映画の初期代表作『火焼紅蓮寺』は、二つの対立する武術門派の闘争を撮影する際に、「剣光闘法」という初期映画の特別撮影技術を採用した。その当時は、アニメと写真フィルムを合成する方法で撮影していた。二人の闘剣、剣の戦いの動きを先に撮影してから、フィルムに剣を飛ばして光線を放つなど画面を描き、「剣光闘法」という特殊な視覚効果を合成した。この合成撮影の方法は後に武侠映画製作においてよく使う特撮技術となる。「剣光闘法」の特撮技術により、侠客たちは「御剣飛行」を通じて自由に空を飛ぶことができるだけでなく、手の指や武器で剣光を射出し、スクリーンに熱気をもたらして、映画の鑑賞性を大いに高めた。

6. 終わりに

このように、武侠映画における武器は多様な意味を持っている。武侠映画において、武器は人格を備えており、武芸は思想性に富み、技は一種の誇張された表現であるといえる。

参考文献

岡崎由美、浦川留『武侠映画の快樂—唐の時代からハリウッドまで剣士たちの凄技に迫る』、三修社、2006。

贾磊磊『中国武侠电影史』、文化艺术出版社、2005。